Student Free Design Activities (One Health Collaborative Training)
報告書 Report

報告者 [Reporter]

氏名 [Full Name]	清水広太郎		
学年 [Year]	博士課程３年（博士課程２年時実施）	E-mail	
所属 [Affiliation]	大学院獣医学院		

担当教員 [Instructor]

氏名 [Full Name]	坪田敏男		
署名 [Signature]	坪田 敏男		
所属 [Affiliation]	大学院獣医学研究院		
E-mail		電話 [Tel]	

活動報告 [Activity Report]
※活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい。/ Provide photos, tables and figures that clearly show the activities during the period.

タイトル [Course Title]	ネパールにおける野生動物の感染症および生態調査
実施期間 [Periods]	2023年3月15日~2023年3月31日
共同実施者 [Other participants]	なし
言語 [Language]	英語
実施場所 [Location]	ネパール：Chitwan National Park、Mustang郡

申請時計画の実施報告 [Report how you carried out your plan in the application form]

本活動は3月15日~3月31日という長期間に渡って行われた為、スケジュールにいくつか変更はあったものの、おおむね予定通りに活動を実施することができた。

現地では主にNational Trust for Nature Conservationの協力のもと活動を行い、現地の野生動物保全管理について学び、現地調査を行った。活動は主にChitwan National ParkおよびMustang郡で行われた。以下に各地域での実施内容について報告する。

Chitwan National Parkでは当初はインドゾウ（ゾウ）の結核蔓延状況に関する調査を実施予定であったが、担当者が急遽不在となったため残念ながらサーベイランスなどのラボワークを実施することができなかった。しかし、結核蔓延状況を考察する上で必要不可欠な野生ゾウの行動調査を行うことができた。Chitwan National Parkではこれまでに計10頭のゾウにGPS首輪を装着し行動追跡を行っている。今回の訪問では新規に購入したGPS首輪を飼育下のゾウに装着し動作確認を行った。残念ながら滞在中に野生のゾウが捕獲されることはなかったが、今後捕獲された場合に備えることができた。また、自然公園の研究者らとの議論の中で、自然公園内のゾウの遺伝的背景がほとんど分かっていないことが問題となった。遺伝的多様性は野生動物を保全する上で重要な要素であり、今後の課題が浮き彫りとなった。

Mustang郡ではヒマラヤヒグマ（ヒグマ）の痕跡調査およびカメラトラップの回収を行った。Mustang郡は標高3000mを超す高地であり、ネパールにおける数少ないヒグマの生息地域である。ネパールのヒグマの生息数は非常に少なく、残念ながら今回の調査では痕跡を発見することはできなかった。しかし、厳しい環境と限られた物資のなかでの調査は自身のフィールドワークスキルの向上につながった。また、Marang地区に設置したカメラトラップの回収を行った。残念ながらカメラトラップにもヒグマの姿は映っていなかったが、ヤクやチュウゴクオオカミなど様々な野生動物の姿が撮影されていた。Mustang

郡はアクセスの困難さから野生動物の分布調査が十分に行われておらず、今回の調査で非常に貴重なデータを入手することができた。

目的達成状況報告 [Report how you achieved your goal/objectives listed in the application form]

本活動の目的は過去何年にもわたって野生動物の先駆的な研究活動、保全管理を行っているネパールの研究者らと共同で調査研究を行うことで、One Health approachに対する理解を深めることであった。担当者不在のため一部のラボワークは実施できなかったものの、その分現地の研究者らとのディスカッションやフィールドワークに時間を当てることが可能となった。その中で、野生動物の保全管理における日本とネパールの違いや、共通する課題について理解を深めることができた。以上のことから、計画に変更はあったものの、本活動の目的は十分に達成できたと考えている。

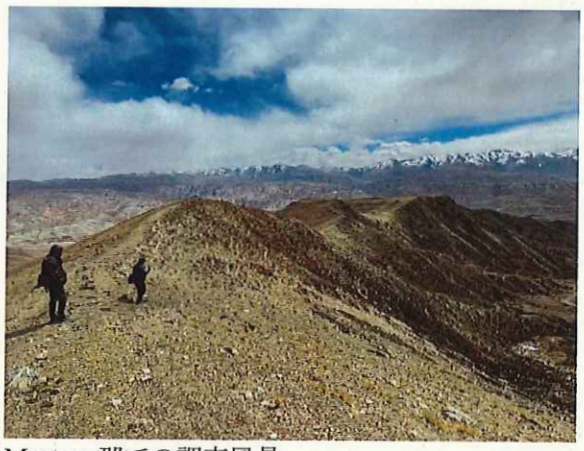
One Health Approach実践報告 [Report how your activity could link to One Health Approach]

私は博士課程では北海道の野生動物を対象としたマダニ媒介性感染症研究を行っている。一方、今回の活動で共同調査を行った現地の研究者の多くは生態学者であり、自身とは異なる学問背景を持つ研究者らと議論を行うことができた。特にChitwan National Parkではゾウと人間のかかわりを現地で体験し、ゾウの行動学的研究が結核の蔓延状況を考察する上でいかに重要であるかを実感した。これは現地でのフィールドワークを通して動物を観察することで得られた気づきである。今回のネパールでの経験を通して、自身の研究においてもマダニ媒介性感染症を生態学と感染症学を融合させて視点で考察することが必要であると強く実感した。本活動は自身の研究の今後の発展において大きな役割を果たすと考えている。

備考 [Remarks]

GPS首輪の装着作業

現地のゾウ飼育施設


Mustang郡での調査風景

Mustang郡のカメラトラップ

※ 報告書を作成後、担当教員に確認をお願いし署名をもらってください。PDFファイルとしてVetLog上の提出書類「Student Free Design Activities報告書」としてアップロードして下さい。

※ Please ask your instructor to check this report and get his/her signature before you submit to WISE Office. The scanned report is to be submitted strictly through VetLog.